

| | | | |
|-------------------|-----------|-------------------------|--|
| 平成 21 年 12 月 21 日 | | 於：岐阜経済記者クラブ | |
| 所 属 | 担 当 者 | 電 話 番 号 | |
| 地域振興部 調査研究担当 | 国 江 ・ 齋 藤 | 0 5 8 - 2 7 7 - 1 0 8 5 | |

「岐阜県の景況調査（2009 年 第 4 四半期）」

概況： 景気先行き不透明感を反映し、景況感は3期ぶりに低下したものの、製造業における足元の売上、受注には持ち直しの動きがみられる。

今回の調査結果の概要

景況DIは3期ぶりに低下した。特に製造業では「繊維・衣服」「金属製品」、非製造業では「飲食店」「小売」「建設」が大幅に低下しており、景気先行きの不透明感が影響したものと思われる。

一方で、製造業における足元の売上高、輸出、生産高、受注量の各DIは、10ポイント以上上昇しており、さらに、来期の見通しでも、いずれも20ポイント以上の上昇見通しとなっており、足元では持ち直しの動きがみられる。

ただし非製造業では、DIは低下しており厳しい状況となっている。

今回プラスに働いた製造業の各DIの上昇は、米国や中国を中心とした輸出の回復やエコカー減税、エコポイント等の消費刺激策によるところも大きいとみられる。尚、輸出は円高基調にも関わらず11.9ポイントの上昇と2期連続で上昇している。

来期の景況DIの見通しは、製造業を中心とした生産などの回復の動きを受けて、6.6ポイント（製造業11.4ポイント、非製造業4.2ポイント）上昇となっているが、今後の経済対策のほか米国や中国などの経済の先行きなどにも左右されると思われ、依然として不透明感がある。

販売価格DIおよび仕入れ価格DIは、いずれも製造業で上昇、非製造業で低下、全体では低下した。

採算DIは製造業で上昇、非製造業で低下となっており、対照的な動きとなっている。

資金繰りDIは製造業、非製造業ともに悪化した。借り入れ難易感はセーフティネット保証等の金融支援の効果によりほぼ横ばいであったが、今後年度末に向けての資金繰り悪化が懸念される。

設備投資実施状況は製造業では低下し、非製造業では微増であるが21.9%と低い水準である。設備投資意欲は、収益状況（採算）の改善の弱さと先行き不透明感により14.2ポイントの低下となった。

雇用DIは、ほぼ横ばいであり、依然として「過剰」企業が「不足」企業を上回る過剰超過が続いており、今後、回復の足取りが弱まれば、雇用に関わる各種問題の深刻化が懸念される。

DI別の状況

景況DIは、景気の冷え込み懸念により、製造業で5.6ポイント、非製造業で12.0ポイントの低下と、3期ぶりの低下となった。特に「飲食店」(38.5ポイントの低下)、「繊維・衣服」(23.1ポイントの低下)、「建設」(19.2ポイントの低下)、「金属製品」(18.9ポイントの低下)、「小売」(18.7ポイントの低下)が目立つ。来期の見通しは6.6ポイントの上昇(製造業においては11.4ポイントの上昇)となっている。

売上高DIは、製造業で14.8ポイント上昇し、非製造業で3.3ポイント低下し、全体では2.6ポイントの上昇と、ほぼ横ばいながら2期連続の上昇となった。来期の見通しは、11.3ポイントの上昇(製造業においては23.4ポイントの上昇)となっている。

輸出向け売上高DIは、「金属製品」(31.1ポイントの低下)以外の全業種で上昇し、全体では11.9ポイントの上昇と、2期連続で上昇した。来期の見通しも20.0ポイントの上昇となっている。

生産量DIは、6.4ポイント上昇し、3期連続の上昇となった。特に「化学・プラスチック」(55.8ポイントの上昇)が目立つ。来期の見通しは、17.7ポイントの上昇で、(製造業で21.8ポイントの上昇)となっており、特に化学・プラスチックは46.6ポイントの上昇、機械は41.7ポイントの上昇の見通しとなっている。

受注量DIは、製造業を中心に上昇し、0.8ポイントと横ばいながら3期連続で上昇した。「化学・プラスチック」(62.4ポイントの上昇)、「食品」(42.0ポイントの上昇)、「窯業土石」(26.3ポイントの上昇)が大きく上昇した。一方、非製造業では「飲食店」(23.1ポイントの低下)、「小売」(18.0ポイントの低下)、「サービス業(余暇関連)」(17.7ポイントの低下)の低下により7.5ポイントの低下となった。来期の見通しは7.1ポイントの上昇となっており、特に「化学・プラスチック」(46.7ポイントの上昇)の他、「機械」(40.7ポイントの上昇)、「金属製品」(26.1ポイントの上昇)と製造業においての上昇(22.1ポイントの上昇)が目立つ。非製造業は横ばいの見通しとなっている。

在庫量DIは、1.2ポイントとほぼ横ばいながら2期連続上昇した。製造業では、「繊維・衣服」(53.7ポイントの低下)、「窯業土石」(15.6ポイントの低下)など低下が目立ち6.3ポイントの低下となった。一方、非製造業では、「建設」(21.8ポイントの上昇)など軒並み上昇し、8.2ポイントの上昇となった。来期の見通しは、微増となっている。

製品販売価格DIは、「飲食店」(38.5ポイントの低下)、「食品」(32.0ポイントの低下)、「繊維・衣服」(12.2ポイントの低下)など消費者の儉約指向を反映して低下が目立ち、全体で3.4ポイントの低下と2期連続の低下となった。一方、「紙・パルプ・印刷」(21.4ポイントの上昇)、「木材・家具」(18.1ポイントの上昇)の上昇が目立つ。来期の見通しは、やや上昇となっている。

原材料仕入価格D Iは、非製造業を中心に6.7ポイントの低下と2期ぶりの低下となった。特に、「飲食店」の46.2ポイントの低下が目立つ。一方、製造業では「機械」(16.4ポイントの上昇)、「食品」(15.4ポイントの上昇)などが上昇し6.4ポイントの上昇となった。来期の見通しは6.8ポイントの上昇となっている。

採算D Iは、非製造業を中心に悪化し3.5ポイントの低下と2期ぶりの低下となった。製造業では「木材・家具」(11.1ポイントの低下)が低下したが、「窯業土石」(18.1ポイントの上昇)、「食品」(16.8ポイントの上昇)などが上昇し、4.1ポイントの上昇となった。非製造業では、「サービス(企業関連)」(14.2ポイントの低下)、「サービス(余暇関連)」(11.1ポイントの低下)などが低下し、7.1ポイントの低下となった。来期の見通しは2.1ポイントの低下となっている。

資金繰りD Iは、製造業、非製造業とも低下し、6.1ポイントの低下と2期ぶりの低下となった。特に、「繊維・衣服」が28.8ポイントの低下の他、「小売り」、「飲食店」、「機械」が15ポイント以上の低下であり、年末に向け厳しい状況がうかがえる。一方、「食品」(10.3ポイントの上昇)、「運輸・通信」(10.2ポイントの上昇)などが上昇した。来期の見通しは2.6ポイントの低下となっている。

借入れ難易感D Iは、0.4ポイント上昇とほぼ横ばいながら3期連続の上昇となった。「繊維・衣服」が15.4ポイントの上昇、「サービス(余暇関連)」が10.9ポイントの上昇、「窯業土石」が10.1ポイントの上昇となった。一方、「機械」が9.3ポイントの低下、「建設」が7.7ポイントの低下、「化学・プラスチック」が6.6ポイントの低下となっている。来期の見通しは7.9ポイントの低下と、一部の業種を除いて軒並み低下しており、年度末に向けての資金繰り悪化が懸念される。

設備投資実施は、製造業では、「食品」(22.5ポイントの上昇)、「窯業・土石」(11.1ポイントの上昇)など一部で上昇したものの「木材・家具」、「機械」などの低下により、2.7ポイントの低下となっている。非製造業では、「建設」(14.3ポイントの上昇)、「運輸・通信」(13.9ポイントの上昇)などで上昇し、4.6ポイントの上昇となった。今期は2.3ポイントの上昇とほぼ横ばいながら2期連続上昇したが、設備投資目的は補修・更新が多く依然21.9%と低い水準で推移している。来期の見通しは4.1ポイントの低下となっている。

設備投資意欲D Iは、景気の先行きの不透明感により「化学・プラスチック」、「木材・家具」以外の全般で低下し、14.2ポイントの低下と3期ぶりに低下となった。中でも「繊維・衣服」(26.9ポイントの低下)、「飲食店」(25.0ポイントの低下)、「金属製品の」(21.1ポイントの低下)が目立つ。

雇用D Iは、製造業の持ち直し感を受け、1.0ポイント低下し、2期連続低下したものの、5期連続で「過剰」企業が「不足」企業を上回る過剰超過となっている。なお、「木材・家具」(33.4ポイントの低下)、「紙・パルプ・印刷」(14.3ポイントの低下)が低下し、非製造業では「卸売」(22.4ポイントの低下)が低下し、過剰感が緩和している一方で、「飲食」(38.5ポイントの上昇)、「サービス(余暇関連)」(23.5ポイントの上昇)などで過剰感が増している。